

# 塩害停電 今後とも注意

農業をはじめ、静岡県内に大きな傷痕を残した台風24号による塩害。襲来から十日以上すぎたが、中部電力の担当者「今後とも塩害による停電が起きる可能性がある」と依然、注意を呼びかけている。(飯田樹与)

## 県内 電線に付着点検困難

静岡地方気象台によると、台風は進行する東側で風が強く吹く性質がある。台風24号は県の北側を通ったため、沿岸部を中心に海



などに塩が付着。24号の雨量はあまり多くなく、塩が

洗い流されないまま残った。電線の外側の絶縁体部分に傷があると、塩が入り込み、ショートの原因となる。

台風通過後、いったん乾燥した塩が夜露などに溶けて浸入するケースもあり、時間を置いて被害が出ることもある。暴風で傷ついた電線は多いとみられるが、塩の付着の有無を目視で判断するのは困難だ。

中部電力によると、塩害が原因とみられる停電は三日早朝、御前崎や菊川市など中東遠地域の計約二万七千七百戸で発生。それから一週間がすぎた十日夕にも

浜松市東区や、湖西市の計約千六百戸で起きた。この間、電柱と住宅や店舗をつなぐ引き込み線で火花が散った事例を四百四十八件、確認しているという。

台風24号による塩害は首都圏でも起き、鉄道の運行に支障が出た。塩害かどうかは不明だが、浜松市内のJ-R東海道線では十日夜、架線付近で火花の目撃情報があり、点検のため電車に遅れが出た。

静岡理工科大(袋井市)

の中田篤史准教授(電気工学)は「雨が降って、塩が十分に洗い流されるまでは停電が発生してもおかしくない。雨の日の夜に火花が散っているのを見かけたら、電力会社に電話して電線を張り直してもらおうと良い」と話す。